第9回（平成19年度第4回）美浜区地域福祉計画推進協議会 議事要旨

- 1 日時 平成20年3月8日（土）午前10時～午後0時15分
- 2 場所 美浜保健福祉センター 4階 大会議室
- 3 出席者 （委員）
飯野委員長、小椋副委員長、
池田委員、大坪委員、桑原委員、佐々木委員、高橋委員、長岡委員、
長倉委員、成田委員、別所委員、村社委員、山崎委員 （13人）
（地域福祉パイロット事業事例発表者）
社会福祉協議会高洲・高浜地区部会 2人
（事務局）
保健福祉サービス課 長谷川主幹、荒川補佐、由井主事、塩田事務員
保健福祉局 大西次長
保健福祉総務課 弓削田課長、石原主幹、半澤主査、小林主任主事
社会福祉協議会美浜区事務所 若林所長、齊藤主任主事

4 議題

- (1) 各グループ会議の現況報告について
- (2) 地域福祉パイロット事業について
- (3) 地域福祉活動事例集の発行について
- (4) 市地域福祉計画一覧について
- (5) その他

5 議事の概要

- (1) 各グループ会議の現況報告について
各グループから、グループ会議で話し合った内容を報告し、質疑応答、意見交換を行った。
- (2) 地域福祉パイロットについて
事業を実施した社協高洲・高浜地区部会から、事例発表を行い、質疑応答、意見交換を行った。
- (3) 地域福祉活動事例集の発行について
事務局から地域福祉活動事例集の発行について説明した。
- (4) 市地域福祉計画一覧について
前回会議で配布した市地域福祉計画一覧について、質疑応答、意見交換を行った。
- (5) その他
事務局から、次年度の推進協議会委員の継続について依頼した。

6 会議経過

(1) 開会

(2) 保健福祉局次長あいさつ

(3) 発言の要旨

議題(1) 各グループ会議の現況報告について

委員長： それでは、グループ会議の報告を、第1グループからお願いします。

第1グループ「町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援」

委員： 第1グループは、前回の推進協議会から、第4回、第5回と2回の会議を行っています。

第4回は12月22日に稲浜公民館で行いました。第1グループのテーマが「町内自治会・社協地区部会・NPO等による地域住民の生活支援」です。特に自治会が地域に存在するかしなないかが、福祉活動に大きく関係してくると思いますが、最近できた民間マンション等に自治会がないところがたくさんあり、地域コミュニティの形成がされていないのではないかとということで、自治会の結成をどう呼びかけていくのか、ということ色々と話し合ってきました。

まず千葉市の自治会等に対する施策についてということで、市地域振興課から資料をいただき、千葉市のマンションの数と自治会の結成率を調べました。次にマンション以外の町内自治会の未結成状況ですが、マンションは法律に基づいて管理組合が結成されていますが、そうでないところには手の打ちようがないという状況にあります。そして、自治会未結成マンション等に対する取り組み方法として、設置呼びかけの文書作成、呼びかけの時期と方法、取り組み後のアクションの3点について話し合いました。

そして、資料にある通り市地域振興課へ、4回会議で話し合った内容の報告と4つのお願いという形で文書を作成しました。

1つは、千葉市が町内自治会の結成や活性化のために作成しているパンフレットを見直す時期に入っているということで、作成にあたってお願いしたいことを入れました。

1点目は、社協地区部会の設立、活動や民生委員児童委員の選出、活動について、自治会のない地域では大変困難であることから、福祉に関する事項をもう少し取り入れていただきたいということです。2点目は、市民が行政と町内自治会の関係があまり理解できていないので、行政と町内自治会の関係をもう少し強調してほしいということです。

続いて2つめのお願いは、市政だよりに町内自治会の宣伝コーナーを設けるということです。町内自治会が地域内や行政との関係で大きな役割を担っていることを定期的に啓発することで、自治会結成を呼びかけてはどうか、ということです。

3つ目は、マンション等に自治会結成の働きかけを近隣自治会と一緒に行ってほしいということです。実際に結成している自治会と一緒にいき、それぞれの立場が

ら自治会の必要性や役割を話す方が、効果的ですし、今後の話し合いのきっかけにもなると思います。

4つ目は美浜区にはマンション以外の自治会未結成地域が多くあり、どう働きかけていくかが検討課題であるということです。

これらのことは、市地域振興課からいただいたデータをもとに、議論しました。

第5回会議は、2月16日に稲浜公民館で開催しました。

この時は、地域振興課に提出した要望事項等の進捗状況を確認し、それについて話し合いました。

まず市地域振興課の自治会未結成マンション等への取り組みの進捗状況ですが、6区係長会議において依頼し、区地域振興課が個別に対応し、連協・地域自治会の協力が必要な場合には別途協力を依頼するということです。

そして、第4回推進協議会への報告と提案事項が2つあります。

1点目は、自治会の結成は地域福祉計画推進のうえで必要なことであるので、区地域福祉計画推進協議会としても、市地域振興課へ依頼をしてほしいということです。

2点目は、他区の推進協議会がどのような活動をしているか、情報交換をしてほしいということです。

次回のグループ会議は、今日の推進協議会の検討結果を踏まえて考えたいと思います。以上です。

委員長： ありがとうございます。何かご質問はありますか。

委員： 私は分譲マンションで自治会の会長をしておりますが、自治会をつくるときには、非常に大変な思いをしました。地域振興課は、マンションの規約と役員を別にしないと自治会として認めないということでした。マンションイコール自治会だと全員加入になり、何か配布するのでも非常にやりやすいのですが、自治会はあくまでも任意団体だというわけです。それだと、自治会に入った人にしか配布物が届かないということになります。情報を伝えやすくするためにも、また、自治会の役員のなり手がいないという意味でも、別に組織するというのは、難しい状況です。

委員： 民生委員児童委員の推薦や選挙の立会人、国勢調査等、行政が町内自治会と関わる項目が非常に多いですから、行政にとっても、自治会を作ってもらふ必要性はあると思います。地域振興課としても、住宅を管理している住宅政策課と連携して情報を得ながら、マンションの管理組合の役員とコンタクトをとって説明に行くなど、前向きに努力したいという話でした。

したがって、推進協議会としても、我々も協力するから自治会結成の促進を、図ってほしい、という申し入れをしてほしいというのが第1グループの結論です。

委員： 私も第1グループに入って検討していますが、座長が提案したことについて、この推進協議会で議論して、要望等していってもよろしいのでしょうか。よいのであれば、委員の皆様のご意見を聞いていただけないでしょうか。

委員長： けっこうです。他にご意見はありますか。

- 委員：既に管理組合があって、自治会を結成しているマンションがたくさんあると思います。そういうところの事例を新しいところに紹介して、参考にさせていただけばよいと思います。
- 委員：私のマンションでは、マンションの規約の中に自治活動という項目が含まれています。任意加入ということをはっきりと細かく言うと少しおかしいところもあるかもしれませんが、実際はその方がやりやすいと思います。それを行政からそれではいけない、自治会を別に作れと言われてしまうと、敷居が高くなってしまいます。規約を承知して住民は入居してくるわけですから、行政としてもあまり杓子定規に考えずに、認めてほしいと思います。
- 委員：あまり四角四面に考えずに、それぞれの組織や実情に合わせた結成の仕方をする必要があると思います。
- 委員長：ありがとうございました。この問題は福祉のことも絡んでいますが、自治会の結成について、福祉局はどう考えているのか、その辺をお聞かせください。
- 事務局：自治会の意義についてということですが、やはり千葉市の実情をみましても、自治会は地域福祉の担い手のかなりの部分を占めている重要な組織であると認識しています。千葉市において、自治会加入率が既に70%台という状況になっておりますが、今後、地域福祉を推進したり住民の自発的な活動を集約して進めたりする上でも、非常に重要な役割を果たしていただきたいと考えています。
- 委員長：現状で、組織のないところに福祉活動を浸透させるために、こういったことをしていますか。
- 事務局：自治会組織を通じての活動を未結成地域で進めるのは難しいかもしれませんが、地域福祉の担い手は、社会福祉協議会や老人クラブ等、様々な方々がいらっしゃいますので、自治会の空白地帯イコール福祉活動が進んでいない、担い手がない、ということではないと思います。その地域でボランティア活動をしている方などを中心にして、地域福祉が広まってほしいと思っています。
- 委員：地域振興課で行う自治会のパンフレット作成等に、福祉局は関与しているのですか。
- 事務局：していません。
- 委員：今は行政の総合化と言っていますので、自治会の結成について、街づくり部門だけではなく、福祉部門も積極的に情報発信してほしいと思います。
- 私たちが自治会を取り上げているのは、自治会は住民が直接参加する1番基本的な組織だろうと思っているからです。ここが充実すれば、地域福祉計画に載っている課題も解決してくるだろうと思いますので、そういうことを保健福祉部門も十分認識してほしいと思います。
- 委員長：今日は保健福祉局次長さんもいらっしゃっていますので、ぜひ地域振興課と一緒に後押ししてほしいと思います。
- 委員：参考意見ですが、高洲・高浜地区部会では、自治会のない地域の住民にも、会員募集の印刷物を配布して、高洲コミュニティセンターで受付をしています。

副委員長：先ほど事務局から、自治会がなくても、老人クラブやボランティアを通じてというお話がありましたが、やはり自治会がないと老人クラブも結成しにくいと思います。

私は以前行政に、新しくできるマンションに対して、行政はどう指導しているのかということをお聞きしたら、指導しているという答えでした。では、どう指導しているかというと、自治会を作ってくださいと、いくらいのことしか言っていないようです。ですから、住民が自治会は必要ないという意見だと、なかなか結成されません。

今は元気だから必要ないと思うかもしれませんが、元気な人は、将来自分が年をとってくるといことは頭がないと思います。そういったことも踏まえ、行政にはもっと積極的に指導してほしいと思います。

第2グループ「居場所、交流の場づくり」

委員：第2グループのテーマは居場所・交流の場づくりです。第4回と第5回、2回会議を開催しました。

第4回は12月6日、美浜保健福祉センターで行いました。前回の推進協議会で報告した内容について、特に修正意見がありませんでしたので、今まで通りに検討を続けようということになりました。

市のモデル事業でもある、磯辺第1中学校の2教室が地域に開放された件については、経緯を見守りながら検討しようということになりました。当日現場に見学に行きましたが、鍵がかかって入れなかったため、外から見ながら説明を受けました。開放された教室は校門から近いところにあり、使いやすいのではないかと感想が出ました。

続いて、船橋市の事例について学びました。船橋市では、公民館に社会福祉協議会の事務所があり、色々な相談にのってくれるそうです。こういう形だと、住民が利用しやすいのではないかと声がありました。

次に居場所の候補地について検討しました。まず、使用目的ごとに話し合いましたが、グループ活動の拠点として利用するような場合は、はっきりとした目的があるので、多少離れた所でも、空き店舗、余裕教室、公共施設等が有効な物件なのではないかと思います。一方、個人の方がお休み処的に利用する居場所としては、商店街等、駅までの途中や買い物の途中など、気軽に立ち寄れるような場所があるとよいという意見が出ました。

また、お休み処の拠点として、蕎麦屋や寿司屋等、既に営業している店舗とタイアップし、互いに利益を共有できる運営の仕方を考えよう、100円や200円で気軽に飲食できるメニューを提案してもよいのではないかと、という話になりました。そして、実際にこの考えに共感してくれる店舗があるのか、あためようという結論で、第4回会議は終わりました。

第5回会議は、3月1日、真砂コミュニティセンターで行いました。

前回の会議で出たお休み処の案について、実際に飲食店にあたってみました。真砂3丁目のショッピングセンター内にある飲食店にお話しをしたところ、地域の活性化にもなるし、店としても地域のためになるようなことを以前から考えていたということで、積極的に意見を聞いてくださり、もしかしたら実現できるかもしれない、という感触を得ました。その後、具体的な話はしていませんが、市や団体でお休み処を認定するような形式がとればよいのではないのでしょうか。市で、このような居場所をいくつか整備することを提案したいと思います。地域によって居住者もニーズも様々ですから、地域にマッチしたものをぜひお願いしたいと思います。

また、居場所としては、単に場所があるということではなくて、常時ボランティアなどによる接待者がいて温かみのある空間がよいと思います。場所を管理する場合に、指定管理者等の問題もありますが、その辺りのことは今後話し合っていきたいと思います。

それから、もう一箇所、磯辺にワークホームくるみという福祉施設があるのですが、ここはテラスハウスを借りて設置していて、1階にワークホーム、2階にリサイクルショップがあり、ここではフリーマーケットをすることもあります。2階は、普段空いていることもあり、そこを地域に方たちに積極的に使ってもらってはどうかという話も出ています。

また、現在学校統廃合の問題がありますが、統合後に空いた建物などがあれば、それを居場所として利用できるように積極的に働きかけて提案していきたいという意見が出ました。

グループ会議は今年度最後になりますが、また新年度に多くの委員に参加していただいて、議論していきたいと思っています。以上です。

委員 長： ありがとうございます。ご意見がありましたらお願いします。

副委員 長： 学校の統廃合については、まだはっきりしていません。住民が反対している地域もあります。そのような中で、跡地をどうしようかと検討されるのは困るので、少し控えていただきたいのですが。

委員： グループ会議で話し合ったときは、学校統廃合の話もあるので、こういうことも地域と一緒に考えていきましょうとまとめたわけです。反対地域があるということは知らずに話を進めてきました。双方が合同ですり合わせをしていく必要があると思いますし、グループ会議の中でもそれを踏まえて考えていかなければいけないと思っています。

委員： グループ会議で、統廃合に賛成、反対ということではありません。他の団体とも一緒に検討していきたいと思います。

副委員 長： まだ統廃合が決まったわけではないので、それをご理解いただいて、お互いに話し合っていきたいと思います。

委員 長： 第2グループで話し合っていることは、学校の問題に結論が出てからの話ですね。他にご意見なければ、第3グループの発表をお願いします。

第3グループ「社会福祉協議会の機能強化」

委員： 第3グループは、3月3日にちばし権利擁護センターのセンター長をお招きして、地域福祉権利擁護事業と成年後見制度についてお話をうかがいました。

まず、地域福祉権利擁護事業は何かと言うと、判断能力が低下している方へ、財産管理サービス、福祉サービス利用援助、財産保全サービス等の支援を行うということです。利用対象者は、契約能力を有していることが条件で、各サービスは有料です。実際のサービスは生活支援員が行いますが、この人数が少ないようですので、自治会や地区部会を通じて支援してくださる方がいらっしゃればお願いしたいという話でした。

成年後見制度は、任意後見、判断能力が不十分な方への補助、判断能力が著しく不十分な方への保佐、常に判断能力を欠いている状態の方への後見、というように分かれています。後見人等は裁判所が任命します。

後見人等に対しては、1年に1回くらい、家庭裁判所で監査のようなことをするそうなのですが、十分とは言えないようです。後見人等が被後見人の財産を横領してしまうような事件も起きています。

家庭裁判所が任命するだけでなく、後々もしっかり後見できるような制度を作り、実行していただきたいということです。以上です。

委員長： ありがとうございます。何かご意見等がありますか。

委員： 今後、グループ会議としては、どのような方向で検討しようとお考えなのでしょうか。制度の普及等を行うのでしょうか。

委員： 推進協議会の場は意見交換のプラットフォームということですし、制度の普及は行政の仕事なので、そちらでやってほしいと思います。制度として、利用者の被害が出ないように、しっかり整備してほしいと思います。

委員長： 3つのグループにご報告いただきました。来年度もぜひ、それぞれ継続して議論していただきたいと思います。

議題(2) 地域福祉パイロット事業について

委員長： それでは、地域福祉パイロット事業について、高洲・高浜地区部会のお二人をご紹介します。よろしくをお願いします。

発表者： よろしくをお願いします。それでは私どもで実施しました、パイロット事業の概要をご説明して、皆様のご質問、ご意見をうかがいたいと思います。

事業名は、「こどもの広場 in みはま」です。

事業主体は社会福祉協議会高洲高浜地区部会、参加団体として、NPO法人はなまる企画、みはま子育てフォーラムの協力をいただき、連携しながら事業を実施しました。事業の目的は、高洲保健センターの跡施設内のフリースペースを利用して、「子ども」に関するイベントを開催し、子どもの居場所となるスペースとして周知するとともに、様々な機関、団体相互の連携を深め、地域で子育てを支援するネットワークの輪を広げることです。

具体的な事業内容ですが、高洲保健センターの跡施設で、こどもフェスタという

イベントを開催しました。日時は2月3日の午前10時から午後7時です。小中学生、子育て中の親、乳幼児など約150人が参加し、スタッフ約60人で運営しました。高洲保健センター跡施設内の3つの部屋で、自由に参加できる様々な体験コーナーを設置しました。例えばスポーツの部屋で卓球大会、凧づくり、イベントの部屋で学生の吹奏楽アンサンブル、よさこいソーラン、フラダンス、「夜回り先生」ビデオ上映会、あそびの部屋で伝承遊び、ポーツスタックス、豆まき等、廊下でけん玉等です。

イベント当日は、大雪という天候でしたが、かえってその天候が幸いしたようで、遠くに遊びに行けなかった多くの子どもたちや親子連れで賑わい、参加者どうして大いに楽しみ、交流が深まった様子でした。

また、地域にある複数の団体が、会議を重ね、1つのイベントを企画していく中で、「地域で子どもを見守る」「子どもの居場所を作る」という意識が高まりました。チラシの作成や、小中学校への周知など、それぞれの団体の得意分野を活かした形で準備を進められたことも大きく、今後も各団体のイベントに互いに協力、支援する体制ができた点でも有意義だったと思います。

以上ですが、少子高齢化社会という大変な時代を迎え、子どもたちの居場所をつくるという大きな目的に向かってがんばったつもりです。ご質問等がありましたらよろしくお願いします。

委員： 保健センターの跡地を利用したのですね。

発表者： そうです。保健センターの跡施設には現在、1階に子どもルーム、2階にいきいきプラザと子育てリラックス館が入っています。市の方で利用しやすいように改修していただき、それぞれの施設が持つフリースペースをお借りして実施しました。

委員： 大変有意義なイベントだったと思います。質問なのですが、障害を持つ子どもがどれくらい参加していたか、また、障害を持つ子が参加できるような工夫は何かされたのか、教えてください。

発表者： 具体的に考えてはいませんでしたが、子どもルームで、障害を持ったお子さんが利用しているところが近くに2ヶ所ほどあり、そちらに案内しました。もしいらっしゃるようでしたら、2階に上がる手段等を考えておりましたが、天候のせいもあったのか当時はみえてなかったようです。これからは、そのようなことも含めて考えたいという意見が反省会の中で出ていました。

副委員長： この事業は今後も継続していきますか。

発表者： 3月3日にみはま子育てフォーラムが中心に、同様のイベントを開催しました。その時は60人から70人の子どもたちが来てくれて、次はいつやるの？という声が多数ありましたので、今後考えたいと思います。

また、各イベントの際には、お互いに手伝おうという話になっています。

委員： 「地域にある複数の団体」とは、具体的にどういう団体でしょうか。

発表者： NPO法人はなまる企画と、みはま子育てフォーラムです。

委員： 子どもが使いやすいように改装されたということですが、現在は常設されているのでしょうか。

- 発表者： 千葉市としては、きぼーるの他には児童館は作らないという方針が出ており、保健センターの跡施設も、児童館を作るという目的での整備はされていません。
- 委員： さきほど、障害を持った子どもの参加についてうかがいましたが、美浜区地域福祉計画の中から出た、障害を持つ子のお母さんたちの団体が活動していると思います。今後、そういう団体と連携していただくと、当事者も喜ぶのではないのでしょうか。
- 発表者： ありがとうございます。後ほど教えていただき、参考にさせていただきます。
- 事務局： 今委員から話のあった「ひまわり広場」ですが、美浜区の地区フォーラム委員の方々を中心に、障害を持つお父さんたちの親の集まりとして定期的に活動されているようです。
- 委員： ぜひそのような団体ともお話をつながせていただきたいと思います。
- 委員： 2点教えてください。イベントの案内はどのように行いましたか。また、それぞれのコーナーは主催団体だけで指導したのか、それとも他に指導者を募ったのでしょうか。
- 発表者： 募集案内は、以前から地区部会のイベントの際に、各学校を通して全生徒にチラシを配布できるような形になっておりましたので、今回もお願いしました。
- また指導者は、地区部会の別の事業で伝承遊び指導者養成を行っていますので、その方たちをお願いしたり、他は子どもと遊んだ経験を持つスタッフが多かったため、そのつてを頼ったりしてお願いしました。
- 委員長： NPO 法人と連携する際に、こうしたらよいと参考になるようなことはありますか。
- 発表者： はっきりとした方針というわけではないですが、一切政治色は出さないということを確認しながら進めました。
- 委員長： ありがとうございます。

議題（3）地域福祉活動事例集の発行について

- 委員長： それでは、福祉活動事例集を市で作られたということですので、お願いします。
- 事務局： 3月17日に地域福祉活動事例集を発行しますのでお知らせします。
- 事例集は、市内で実践されている地域福祉活動を紹介する冊子で、これから新たに地域福祉活動を始めようとする方々や、これまでの活動をさらに広げていこうと考えている方々に、事例から学ぶ地域福祉活動のヒントとして利用していただくことを目的に発行します。
- 事例集の概要ですが、まず名称は市民の皆様親しみをさせていただくことを目的に「始まっています！ “ささえ愛・たすけ愛”」という副題をつけました。
- 紹介事例は各区2つ、合計で12事例を掲載しています。内訳は千葉市社会福祉協議会地区部会の活動が3事例、町内自治会の活動が4事例、NPO 法人の活動が4事例、社会福祉事業者の活動が1事例です。
- 冊子の仕様は、A4版の32ページ、表紙のみカラー刷で本文が2色刷で、7千部作成しました。
- 市民への配布ですが、3月17日月曜日から、各区保健福祉センター、福祉事務所及び社会福祉協議会区事務所で配布します。また、市内の公民館、図書館、コミュニティセンター等の公共施設で閲覧できます。その他、市内の民生委員児童委員約1500名

の方々、それから約1000の全ての町内自治会、社協の地区部会等、日ごろから地域福祉活動に取り組んでいる皆様方にも配布します。

冊子の発行につきましては、3月15日の市政だよりに掲載するほか、千葉市のホームページにも掲載いたしまして、印刷ができるようになっております。

簡単に冊子の中身を紹介いたしますと、美浜区では「NPO 法人ちば地域再生リサーチ」と「NPO 法人子育て支援グループハミングちば」の活動を紹介しています。

内容は、保健福祉総務課の職員と各区編集協力員の皆様にご協力いただきまして、実地取材を重ねて作成しましたので、市民の皆様の目線に近い掲載内容に仕上がっているのではないかと思います。

最後になりますが、冊子の製作にあたり、委員長には取材や編集会議にご出席いただくなど、大変ご協力をいただきましたことを、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

委員長： ありがとうございます。私も編集委員として参加しました。美浜区では2件ともNPO 法人の活動が掲載されています。

委員： 美浜区の事例として掲載されている「子育て支援グループハミングちば」は所在地が中央区千葉港となっていますが、中央区の事例になるのではないですか。

事務局： ハミングちばは、事務所は中央区にあります。活動の中心は美浜区ですので、美浜区の実例として紹介させていただきました。

議題(4) 市地域福祉計画一覧について

委員長： 市地域福祉計画一覧については、前回の会議でお配りして皆さん内容を吟味されてきていると思いますので、ご質問等がありましたらお願いします。

委員： 住民参加の仕組みを作るという項目がありますが、グループ会議の報告で行政に要望したいという内容がありました。グループ会議の成果としての要望は推進協議会としてどのように取り扱っていくのでしょうか。

今までの市の説明だと、プラットフォームで、情報交換して勉強をして、それ以上踏み込んでいけないように認識していますが。

事務局： 推進協議会の役割は、委員の情報交換の場であり、協議して地域福祉の認識を深めていただき、それを地域に持ち帰って広めていただくという趣旨で、この目的については現在も変わっておりません。

2点目の要望の取り扱いについてですが、議論の中で出てきた要望等は、この場で私どももお聞きしていますし、機会があれば所管部門に引き継ぐことも考えたいと思います。また、区の要望の窓口として、地域振興課にあげていただくことも考えられると思います。

委員： 地域振興課に要望するというのであれば、区連協の要望事項として提出します。ただ、区連協での協議の結果ということになります。

委員長： 直接推進協議会として市へ出すのではなく、地元の地区連を通してということですね。

委員： どうしてそのような回りくどいことをしなければいけないのですか。地域福祉計画は5ヵ年計画で行政がたてた計画で、推進協議会は行政が委員を募って設けられています。

それなのに、そこから出た意見を地域振興課を通じて出せというのは、筋が違うのではないのでしょうか。区連協からの意見は、区連協に加盟している自治会に限っての意見として出されます。

受けられる、受けられないの整理は当然必要だと思いますが、その認識には納得できません。

委員： 私も同意見です。

副委員長： そのとおりです。

事務局： 説明不足で失礼しました。区地域振興課が窓口と申し上げたのは、要望を出す手法の1つとしてという意味です。

委員からご意見があったように、私どもは事務局を担って、委員からの提言等をいただいておりますので、それはきちんと所管課に引き継いで、改善されるように努力します。

また、区の推進協議会で、地域福祉が進まない理由や、課題について様々な意見をいただいています。それは今後の課題として解決していくように考えていきますし、次の計画づくりにも反映させたいと思っています。

委員： 推進協議会の所管は福祉局なのだから、我々が年数をかけてまとめた成果は福祉局できちんと受けてください。

委員： 私が聞きしたかったのは、推進協議会の結果を、文書で行政に出してよいかということです。

委員： この場に行政の方が参加して我々の意見を聞いてくださり、それを所管課の今後の活動に活かしていただくのは当然のことだと思います。

ですが、グループ会議の結果まとめた意見を、推進協議会として所管課に申し入れたいとなった場合には、きちんと事務局として受け取っていただきたいのです。事務局としてきちんと、市地域振興課に伝え、結果を次回会議で教えてほしいと思います。

事務局： 色々ご意見をうかがいましたが、3月25日に6区の推進協議会委員長、区長、保健福祉センター長、主幹、社会福祉協議会と保健福祉総務課が一堂に会して、ご意見等をうかがう機会がありますので、そこでも相談したいと思います。

また、来年度に市地域福祉計画推進協議会を立ち上げます。そこには6区の委員長に参加していただき、各区の推進協議会の状況等もお話しいただきたいと思っています。先ほどのご報告の中で、例えば自治会の問題等がありました。これについては、私が市地域振興課にこういうご意見があったということを伝えたいと思います。また、皆様の発言は、貴重なご意見として受け止めて、実現できるものについては努力したいと考えております。

委員長： 推進協議会で色々な意見が出ましたが、地域住民が解決しなければならないものも、行政の手助けが必要なものもあります。例えば以前に話題になった、孤独死の問題の鍵の保障等は、行政として取り組んでもらわないと困りますので、こういったことは推進協議会として市に要望していきたいと思います。

ただ、地域で取り組むべきことは、我々が地域に持ち帰って、広報していかなければいけないと思います。

委員： よく地域に持ち帰ってと言われますが、公募委員には出身母体がなく、これを周知せよと言われても無理な話です。

推進協議会で地域福祉に関することを議論し、それが行政にどう反映されて、住民に還元されるか、ということだと思います。

委員が持ち帰って、というのであれば、地域の団体から責任をもって推薦してもらい、団体の議論されたことを責任を持って整理して推進協議会へ持ってきた上で議論し、またそれを持ち帰るというシステムにしないといけないと思います。組織から来ている委員でも、組織として推進協議会に出席していますということになっておらず、組織に対して何の責任もないのではないですか。

事務局： おっしゃる通り、組織からの推薦でご参加いただいている委員には、組織に持ち帰っていただくことは当然推進協議会の目的としています。

また、公募委員には推薦母体がないということでしたが、地域福祉を推進する視点の1つに連携を掲げています。どういう意味かということ、従前の福祉の担い手は社会福祉協議会や自治会等、限定的だったものを、NPO や一般市民の方など、新しい視点を持った方にも参加してほしいということで、推進協議会の委員構成を考えています。

出身母体のない委員の方については、「持ち帰らねばならない」ではなく、できる限りというお願いとして捉えていただければと思います。

委員： 推進協議会は地域福祉の実行ではなく、プラットフォームだということですから、検討事項として今後解決するように努力しますという以外にないと思います。

委員長： 推進協議会を有意義にするためにどうするべきか、次年度も考えたいと思います。また、行政にできることは要望して、その結果をまた聞きたいと思います。

委員： 今の件については、行政には推進協議会を信用してほしいと思います。

それともう1つ質問なのですが、公助の部分はよくわかったのですが、自助、共助についても評価が必要だと思います。今後の方向、見通しについてお考えはありますか。

事務局： 区地域福祉計画は、市民の皆様にご協力いただけることを、連携して取り組んでいただきたいというものですので、推進協議会の情報交換の中でこの地区でこのような取り組みが行われたと、確認をする必要があると思っています。

委員： つまり何らかの形で評価はしていただけるということですね。やはり目標に掲げたからには、ある程度状況を説明していただかないと我々にはわかりませんのでね。

事務局： 行政が資料を出して行うのか、皆さんの中で調査していただくのか、それは決めておりませんが、進捗状況がどうなっているのかということは、来年度の区推進協議会でやっていただきたいと思っています。

委員： そういう業務が推進協議会へおりにてくるということですね。

事務局： そうです。

議題（５）その他

事務局： 委員長をはじめ、委員の皆様には今年1年、大変お世話になり、ありがとうございました。

来年度の委員の選任ですが、皆様方にはぜひ、委員を継続していただきたいと考えております。

区連協、市老連、社協、民児協の方には、後日団体から推薦していただきたいと思っております。また、公募委員の方には、事務局から今月中に継続依頼をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

委員 長： それから、今年度推進協議会で議論された内容を簡単に取りまとめ、区長に説明するか、残しておきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

委員： 異議なし。

委員 長： それでは、事務局と相談しながら作成します。

委員： パイロット事業は、来年度はどういう予定ですか。いつも募集時期が6月くらいで、既に活動が始まっている時期に、新しいことを実施してくれと言われても急には対応できません。

事務局： パイロット事業は今年度で終了し、来年度はありません。後継事業として、各区2ヶ所モデル事業として取り組むということで、現在議会で審議中です。また後日ご相談させていただきます。

委員： それは社協に対してですか。

事務局： 違います。

委員 長： それでは、これで終わりにしたいと思います。1年間ありがとうございました。

(会議終了)